

浦 企 企 第 3 3 号
平成20年10月20日

国土交通省道路局長 様

北海道浦河郡浦河町長 谷川 弘一郎



今後の道路行政についての意見・提案の提出について

このことについて、平成20年9月19日付国道企第37号をもって依頼ありました標記の権威ついて、別紙のとおり提出しますので、よろしくお取り計らい願います。

(担当 企画課企画係)

①

①道路行政全般について改善すべき点、要望や提案など

北海道浦河町

北海道は、九州と四国を足してもまだ大きいほどの広大な面積を有しており、太平洋、日本海、オホーツク海に囲まれ、四季おりおりの季節によって、多くの観光客も来道し、地域の特性により各々の第一次産業が発展してきています。

又、政府の緊急総合対策として日本の食糧自給率50%が提起されていますが、この数値の確保を考えた場合には、都市部ではなく地方の整備が必要不可欠なものと考えます。

特に、地域資源を育て収穫するその第一次産業に携わる人々が住むためのくらしの道路、産業流通の道路は、少子高齢化の時代を迎え地域格差が生まれるなかで、若者の定着による後継者対策も含め救急搬送や災害に強い道路の構築は、そこに住み続けるための生命線でもあります。

今後の道路行政の推進にあたっては「、地域格差の減少やくらし、命、安全」そして、それにつながる「食や環境」を守ることなど北海道特有の地域特性や事情を踏まえた道路整備行政を要望します。

②—1 地域の現状と抱える課題

北海道浦河町

○現状

1) 国 道

海岸線 1 本だけのであり、坂などの起伏や曲がりが多い。

- ・ このため、軽種馬、畜産物の輸送、更には、命に関係する救急車による緊急医療では、相当数の時間を要している

現状 搬送件数 苫小牧、札幌方面 105 件

所要時間 浦河～苫小牧 2 時間 5 5 分

- ・ 異常気象による大雨での、がけ崩れや冠水による道路の寸断。
- ・ 歩道がない道路や橋梁の整備。

2) 道 道

- ・ 基幹道路になりうる道路の未着工。

3) 町 道

- ・ 草刈や除雪の体制が整わない。
- ・ 歩道や道路の凹凸の修繕
- ・ 出会い頭の事故解消のための町道、交差点等のすみきり

○課題

- ・ イベントや工事や災害、事故などすぐに渋滞となる。緊急搬送や日高の産業である馬や海産物の輸送など、さらには、無理な追い越しを誘発させ悲惨な事故も多発している。

山と海に挟まれた海岸線 1 本だけの国道を拡幅することには、非常に困難なことであり、自動車道などの早期整備を持ち望んでいる。

- ・ 街と街をつなぐ基幹道路、道道昇格などにより整備を図りたいが、道を含め今日財政事情を含め採択までは相当の年数を要している。

- ・ 観光立国北海道、景観や安全確保を図りたいが、道路補修や草刈りを含め、最大の効率化を求めるなかで、その実施回数は減少しギリギリのところでの対策となっている。

今後の道路行政についての意見・提案

様式 ③

②－２ 地域の目指すべき将来像

北海道浦河町

- 1) 緊急体制が整備された道路網
- 2) 災害時に対応できる強い道路
- 3) 地域を循環できる道路網の整備
- 4) 高齢化社会において、足の不自由な方や車椅子などの方が散歩や買い物ができる道路

今後の道路行政についての意見・提案

様式 ④

③道路施策の重点事項（代表事例、期待する効果や評価等）

北海道浦河町

○重点事項	○代表事例	○期待する効果や評価等	○その他
・地域活力の向上	・日高自動車道早期完成 ・浦河～静内間までの調査着手	・緊急医療体制の確保 ・防災体制の確保 ・地域物産の流通・経営安定 ・燃費向上による低炭素社会におけるエコの推進	
	・あらたな基幹道路 道道への昇格	・市街地の交通量緩和 ・あらたな住宅開発 ・地域循環できることによるコミュニティーバスの導入	
・総合的な交通安全対策及び危機管理の強化	・歩道のない道路や橋梁施設の整備 ・町道における隅切り	・通学や仕事で毎日通う道路の安全確保	
・少子・高齢社会に対応した子育て環境、バリアフリー社会の形成	・車椅子や散策、休憩できる歩道や施設など（凹凸の解消） ・ウォーキングなども楽しめる歩道	・地域交流、あいさつによる明るいまちづくり ・健康管理や予防	